

令和5年2月2日

上越市長 中川 幹太 様

浦川原区地域協議会

会長 藤田 宏裕

ほくほく線の利用促進及び利便性向上について（意見書）

上越市地域自治区の設置に関する条例第7条第1項の規定に基づき、ほくほく線の利用促進及び利便性向上について自主的に審議した結果、下記のとおり意見がまとまりましたので提出いたします。

記

浦川原区地域協議会では、多くの諸課題について自主的審議の検討を進めており、その重点課題の一つに北越急行(株)（ほくほく線）の利用促進があります。

東頸城地区の先人の約100年かけた願いが実現し、1997（平成9）年に「ほくほく線」が開業しました。これまで、親しみ・愛着をもって利用してきた鉄路も、開業から25年が経過しています。

中でも、2015（平成27）年3月の北陸新幹線開業まで越後湯沢・金沢間で運行された特急「はくたか」は、走行スピード・収益とも在来線で日本一（首都圏を除く）となり、今でも誇りに思っています。

しかしながら、北陸新幹線の開業とともに利用者が減少し、開業当時の熱意を知らない人が増えた現在、冷静に考えて、マイレールとして地域で支えていくことが大変重要となってきました。

浦川原区地域協議会では、ほくほく線の利用促進や利便性向上、地域の活性化に向けて、自主的に審議してきました。この審議内容に加え、浦川原中学校の生徒さんを行っている意見交換会での意見も取り入れ、以下の取組としてまとめましたので、沿線市町の中核であり、北越急行(株)の大株主である上越市の大きいなる支援を期待いたします。

- 令和 6 年春の敦賀延伸を見据え、北陸新幹線の停車駅である上越妙高駅へのほくほく線の乗り入れを復活するとともに、本数を多くすること。

直江津駅での乗り換えを少なくすることにより、関西方面への移動の利便性向上を図る。なお、直江津駅で乗り換える場合は、高齢者・障がい者等に配慮し、同一ホームでの乗り換えとすること。

- JR 黒井駅にほくほく線列車の停車本数を多くすること。

直江津地区工場群の通勤者（交代勤務者も含む）に「ほくほく線」の利用促進を図る（パーク&ライドによる SDGs の実現）。

- 当地域の農産物生産者や民間事業者が北越急行(株)のネットショップ網を活用して地域の特産品等を販売し、利益の一部を北越急行(株)に還元するとともに地域の活性化につなげる。

- 北越急行(株)が製造する新車両には、必ず車内トイレを設置すること。

- 虫川大杉駅・うらがわら駅両駅舎を活用し、地域の方々が企画・運営するイベントにより駅舎周辺の活性化と「ほくほく線」の利用促進を図るために必要な支援をすること。

例えば、駅舎前広場でのマルシェ（地元生産者やキッチンカーの出店）や駅舎でのカフェ（茶屋）などのイベントを地域運営で開催するための協力。